

ビオトープの基本的な考え方

多様な生きものの生息する空間（ビオトープ）

- ・広いほどよい
- ・変化に富んでいるほどよい
- ・連続性があるほどよい
- ・人為的な影響が少ないほどよい

いきものにやさしい10か条

- ①今ある自然を活かし、その改変は必要最少限にとどめる。
- ②樹林地や水辺などからなる広がりと多様性のある環境をつくる。
- ③それぞれの生息域は緑地や水辺のベルトでつなぐ。
- ④林縁部や水際線など環境の変化する境界部（エコトーン）を大切にする。
- ⑤生態系の分断を避けるため、動物の移動経路を確保する。
- ⑥木材や石など自然素材の活用に努める。
- ⑦透水域を確保し、人工物の被覆は可能な限り分散させる。
- ⑧健全な表土を保全し、郷土種の活用を図る。
- ⑨緑地や水辺などを活用して動物の隠れ家や緩衝帯（バッファゾーン）をつくる。
- ⑩農業や除草剤などに頼らず生態系のバランスを図る。

まちづくりへの適用